

## 地域分野に関する意見対応表

【地域】			
No.	委員	意見（要約）	対応
1	吉岡委員	○基本目標6の目指す姿1について、10年後、新型コロナウイルス感染症が一定程度収束したら、かなりの外国の方が札幌にお住まいになるということも想定される中で、外国人の方に対する雇用面への理解の促進まで踏み込む必要があるのではないか。	○経済分野の基本目標12の目指す姿2の施策として、「女性、高齢者、外国籍の方、障がいのある方等の活躍機会の創出に向けて、多様な人材の就業を支援します。」を掲げ、取り組んでまいります。
2	佐藤（理）委員	○基本目標6の目指す姿1について、この目標を達成していくに当たり、コミュニケーションツール等にICT機器を使っていくことになると思うので、他のところでもICT機器を活用してということを掲載しているので、ここにも載せても良いのではと思う。	○ご意見を踏まえ、基本目標6の目指す姿1の施策について、「障がいのある人もない人も、誰もが互いに人格と個性を尊重し支え合う社会の実現に向けて、合理的配慮や障がい者雇用などへの理解を促進するほか、手話や要約筆記、点字、ICT機器の活用など障がい特性に応じた多様なコミュニケーション手段を利用しやすい環境を整備します。」と修正します。  (当初：基本目標6目指す姿1) ・障がいのある人もない人も、誰もが互いに人格と個性を尊重し支え合う社会の実現に向けて、合理的配慮や障がい者雇用などへの理解を促進するほか、手話や要約筆記、点字など障がい特性に応じた多様なコミュニケーション手段を利用しやすい環境を整備します。
3	定池委員	○基本目標6の目指す姿1に向けた施策について、アイヌ文化を発信する施設は南区の小金湯にあると思う。内容は充実しているが、郊外にあって、公共交通で行くのもなかなか大変だなという印象があるので、魅力の発信だけではなく、アクセスのしやすさも検討に入れてほしいのではないかなと思う。	○南区小金湯に位置するアイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」へのアクセスについては、都心部から定山溪方面への直行バスが利用可能であることなど、アクセス方法の情報提供も含め、利便性の確保に努めてまいります。  ○なお、アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」のほか、都心部においては、地下鉄南北線さっぽろ駅構内のアイヌ文化を発信する空間「ミナバ」、サッポロファクトリー内の「アイヌ文化PRコーナー」などにおいて、アイヌ民族の歴史や伝統文化に関する発信を行っています。

【地域】			
No.	委員	意見（要約）	対応
4	定池委員	<p>○基本目標7目指す姿3について、古くからの住宅街で、地縁が強く、町内会が頑張っていらっしゃる地域も札幌市内にありますが、転入者の方が多く、もともといらっしゃる住民の方が少なく、町内会をつくること自体が難しいところもあると思う。</p> <p>○札幌市の中で、それぞれのエリアの住民の層に分けて町内会の在り方を検討するというのは、市民自治の考えからも行政が手を加えるのは難しいことは理解するが、参加しやすい町内会のつくり方への支援の言及もご検討をいただけないかなと思う。</p>	<p>○ご意見を踏まえ、基本目標7の目指す姿3の施策について、「町内会活動等の更なる活性化に向けて、町内会の意義や重要性を広報・啓発するとともに活動への支援や加入促進に向けた支援を行います。また、<u>それぞれの町内会が抱える課題・特性に応じた効果的な支援</u>や市民集会施設などの活動の場を維持・充実する際の支援を行います。」と修正します。</p> <p>○また、令和4年第3回定例市議会において、「札幌市未来へつなぐ町内会ささえあい条例案」が可決されたところであり、札幌市としては、地域コミュニティの中心的存在である町内会がその活動をこれからも続けていくために、町内会の加入促進や負担軽減につながる様々な町内会支援策を行っていくことが必要と考えています。</p>
5	福士委員	<p>○今まさに町内会存亡の危機と盛んに言われており、札幌市でも、町内会に関する条例の制定に向けて動いており、色々な方から声を聞き、集約に向かっていているところ。</p> <p>○今後10年後を見据えたとき、現状の町内会の在り方は相当変わっていくのではないかと考えており、各地区の特色を生かした活動が徐々に動き出している中で、このような動きを行政がどのようにフォローしていくかというのが一番のポイント。</p> <p>○維持ができない町内会も出てきている中で、町内会条例の制定に向けて、行政がさらなる支援を加えていくという議論がなされていますが、財政的であれ人的であれ、行政側も大変ハードであると思う。</p> <p>○町内会の現場をつかさどっている立場から言うと、住民側が、行政が全てをやってくれるという間違っただけにはならないようにしなければいけないと思う。</p> <p>○目指す姿4の施策ではいろいろな支援団体名が書かれているが、市民の関心を高めていくことが、10年後に生きてくると思う。</p>	<p>○また、基本目標7の目指す姿4の施策について、「多様な主体による地域に密着したまちづくり活動の促進に向けて、NPOと町内会、商店街等の協働を促進するとともに活動への支援や情報発信を行います。また、企業がまちづくり活動に参加しやすい環境整備や認定制度などの企業価値の向上に繋がる支援を行います。」と修正します。</p> <p>（当初：基本目標7目指す姿3）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会活動等の更なる活性化に向けて、町内会の意義や重要性を広報・啓発するとともに活動への支援や加入促進に向けた支援を行います。また、市民集会施設などの活動の場を維持・充実する際の支援を行います。</li> </ul> <p>（当初：基本目標7目指す姿4）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な主体による地域に密着したまちづくり活動の促進に向けて、NPOと町内会、商店街等の協働の促進や活動への支援を行うほか、企業がまちづくり活動に参加しやすい環境整備や認定制度などの企業価値の向上に繋がる支援を行います。</li> </ul>

【地域】			
No.	委員	意見（要約）	対応
6	吉岡委員	<p>○先日、町内会活動をされている高齢者の方から、小学校の子どもたちに自分の戦争に関わる体験をお伝えしたいが、ICTなどを使って発信するのは難しいので、大学生の力を貸してほしいと言われ、学生を何人か紹介したところ、大学生がyoutubeでライブ配信をしてくれたという良い事例があった。</p> <p>○基本目標7の目指す姿3について、町内会は、札幌の大きな財産であるので、町内会活動について、若者をターゲットに、今後10年の中で活躍してもらうことを目指してはいかがかなと思う。</p>	<p>○ご意見を踏まえ、基本目標7の目指す姿1の施策について、「まちづくり活動への参加促進や担い手育成・確保に向けて、未来を担う若者へのまちづくり活動の大切さや必要性についての意識向上を図るとともに、若者と地域を繋げ、若者のまちづくり活動への参加を促進します。また、誰もがまちづくり活動を体験できる機会や情報を提供します。」と修正します。</p>
7	松田委員	<p>○若者が何か活動しようと思ったとき、一番難しいのが地縁でして、そこが若い人にとってまちづくりに参加する上での障壁になっているという事実もある。</p> <p>○若者たちなど、志のある方と地縁をどう結びつけていかに行政や私どものようなところが役割を担うのだろうなと感じている。</p> <p>○若い世代が本当の意味でまちづくり活動に参画しようとしたとき、それは求められていないのだな、と思われないようなアクションをしていかないといけないなと思う。</p>	<p>○なお、子ども・若者分野の基本目標2の目指す姿3の施策に、「若者の地元定着や人材育成等に向けて、大学と地域や企業、大学間の連携を推進します。」、基本目標3の目指す姿3の施策に、「地域社会での体験活動など、多様な学びの機会の提供に向けて、地域、企業等がもつ人的資源などを生かした学習環境づくりを推進します。」と掲げ、大学や初等中等教育とも連携しながら、取り組んでいく考えです。</p>
8	高橋委員	<p>○コミュニティを支える人の育成というのは、10年、20年、30年と長期的な取組が重要なのではないかと考える。</p> <p>○基本目標7の目指す姿1、2、4に関連することですが、まちづくりの担い手の育成、計画の立案、また、まちづくりそのものに大学や初等中等教育との連携、参加ということが文言としてあまり出てきていないように思いますので、学校との連携や参加という言葉として入れてはどうかなと思う。</p> <p>○高等教育では、地域課題の解決を通じた教育が今注目されており、学校を通じた地域の課題やまちづくりを考える仕掛けについても検討してはどうかなと思う。</p>	<p>（当初：基本目標7目指す姿1）</p> <p>・まちづくり活動への参加促進や担い手育成・確保に向けて、未来を担う若者へのまちづくり活動の大切さや必要性についての意識向上を図るほか、誰もがまちづくり活動を体験できる機会や情報を提供します。</p>

【地域】			
No.	委員	意見（要約）	対応
9	尚和委員	<p>○NPOに対しては、多くの人にしっかりと理解を持っていただけないケースもあるのかなと思うが、市役所にサポートをしていただけたら、またさらに連携が繋がって増えていくのではないかなと思う。</p> <p>○基本目標7の目指す姿2のまちづくり活動の担い手の育成確保というところに未来を担う若者としてしっかり書いていただけて、すごくよかったなと賛成します。</p> <p>○働いている男性の中には退職した途端に人とのつながりがなくなって孤立してしまう方が多いということをよく聞いているので、働いている時からまちづくりなりボランティア活動に参加するイメージを持っていただけると良いと思う。</p> <p>○若者だけではなく、今の働いている世代の人たちにも積極的にまちづくりに関心を持っていただけるような情報を発信して行くという取組が必要になると思う。</p>	<p>○ご意見を踏まえ、基本目標7の目指す姿4の施策について、「多様な主体による地域に密着したまちづくり活動の促進に向けて、NPOと町内会、商店街等の協働を促進するとともに活動への支援や情報発信を行います。また、企業がまちづくり活動に参加しやすい環境整備や認定制度などの企業価値の向上に繋がる支援を行います。」と修正します。</p> <p>○また、若者だけでなく、働く世代に向けた情報発信については、基本目標7の目指す姿1の施策として、「誰もがまちづくり活動を体験できる機会や情報を提供します。」を掲げ、取り組んでいく考えです。</p> <p>（当初：基本目標7目指す姿4）</p> <p>・多様な主体による地域に密着したまちづくり活動の促進に向けて、NPOと町内会、商店街等の協働の促進や活動への支援を行うほか、企業がまちづくり活動に参加しやすい環境整備や認定制度などの企業価値の向上に繋がる支援を行います。</p>

【地域】			
No.	委員	意見（要約）	対応
10	大西委員	<p>○例えば、NPOと共に活動をした町内会の取組を広く発信し、そういったところに意義を見つける、気づきがあることで、町内会の重要性に気づくこともあると思うので、モデルの町内会を設定し、横展開をしてみてもどうかと思う。</p> <p>○何がまちづくり活動なのかをイメージしたとき、ボランティア活動に参加をする、会議に委員として参加して意見を発言するなど、市民の方たちにとってハードルが高いのかなという印象がある。</p> <p>○市が行うアンケートに回答することだけでも市政に参加したことになり、今後のデジタル化社会においては、人流データを提供していることが市政に参加していることになるのではないかなとも感じている。</p> <p>○皆さんの日々の生活が実は市政の今後の在り方の検討に役立っているのだというだけでもまちづくり活動への参加になるのではないかなという印象を持っていますので、こういうこともまちづくり活動に参加したことになるのだというハードルを下げるような啓発も重要と思う。</p>	<p>○基本目標7 目指す姿3の施策に「町内会活動等の更なる活性化に向けて、町内会の意義や重要性を広報・啓発するとともに活動への支援や加入促進に向けた支援を行う」ことを掲げ、町内会活動の好事例の発信等も含め、取り組んでいく考えです。</p> <p>○また、ご意見を踏まえ、基本目標7の目指す姿1の施策について、「誰もがまちづくり活動に参加しやすい環境整備に向けて、<u>市民まちづくり活動に寄付をすることは、直接参加していることと同じ効果を生むという認識や意義の理解を促進するとともに、市民、企業等による資金的支援を通じたまちづくり活動を促進します。</u>」と修正します。</p> <p>○これまでも、市民アンケートに答えることも市政への参加になることなどを発信してきたところですが、市民に市政をより一層身近に感じていただけるよう努めていきたいと考えております。</p>
11	浅香委員	<p>○昨今、家庭環境も様々である中、寄附に関する内容を、全市民を対象にしたまちづくりビジョンの中に入れてもいいものなのかなと感じる。</p> <p>○寄附文化を醸成することは悪いことではないと思うので、寄附を通じたという表現は、少し手直ししていただければと感じる。</p> <p>○基本目標6 目指す姿1について、多様なコミュニケーション手段をこれから整備していくことと、あわせて、障がいなどで色々な移動手段の助けが必要な方がいて、そうした方にとっても使いやすい整備をしていただければと思う。</p>	<p>（当初：基本目標7 目指す姿1）</p> <p>・誰もがまちづくり活動に参加しやすい環境整備に向けて、寄付文化を醸成するとともに市民や企業などの寄附を通じたまちづくり活動を促進します。</p>

【地域】			
No.	委員	意見（要約）	対応
12	佐藤（理）委員	<p>○基本目標7の目指す姿1について、地域での支え合いの促進に向けて、見守り活動を推進していくことが記載されており、広がっていくと良いと思う。</p> <p>○現場の意見から言いますと、厚労省で地域包括ケアを進めており、それにより医療と介護はつながってきています。医療では生活・暮らし分野のところでも在宅に入ってくるという記載があるのですが、地域とつながることがなかなかできていません。</p> <p>○地域は在宅生活を支える一番の基盤なのですが、そこにはなかなか入り込めず、介護と医療だけが外から割り込んでいるのが現状です。</p> <p>○その理由としては、個人情報保護の壁があると感じており、町内会の方を紹介してほしい、また、関係者が隣の家の方に声をかけても、隣のことは勝手にお話しできないというように、なかなか入り込んでいけないのが現状。</p> <p>○医療や介護事業者、地域の方たちがつながって支援をしていきますという計画にしていただけると現場も入っていきやすいと思うとともに、医療と介護との連携についても掲載していただくと有難い。</p>	<p>○ご意見を踏まえ、生活・暮らし分野の基本目標5の目指す姿1の施策について、「誰もが住み慣れた地域で安心して療養できるよう、がんや脳卒中、心血管疾患などの主要な疾病ごとの医療連携体制を構築するほか、入院医療機関やかかりつけ医と在宅医療、<u>介護・福祉など、様々な主体の連携により、患者を地域全体で支える体制を構築します。</u>」と修正します。</p> <p>（当初：基本目標5目指す姿1）</p> <p>・誰もが住み慣れた地域で安心して療養できるよう、入院医療機関やかかりつけ医と在宅医療との連携により、患者を地域全体で支える医療体制を構築します。</p>